



発行所
 飯田市竜丘公民館
 編集人
 竜丘公民館広報委員会
 印刷所
 龍共印刷株式会社
 上郷町黒田22-5353

人口 6,306 人
 男子 3,034 人
 女子 3,272 人
 世帯数 1,756 戸
 (2月末現在)

魅力ある地域づくりを求めて

第11回竜丘地区市民大学講座



去る二月九・十六・二十日の三夜にわたって、第十一回竜丘地区市民大学講座が行われた。「今、地域づくりに求められる視点」を共通テーマに、武井、岡田、松下各先生方より、各地の地域づくり事例の紹介や、これからの地域づくりのあり方についてのご提言等をいただいた。平成二年度よりスタートする竜丘地区基本構想・計画の策定にも大変参考となる講座となった。

第一講は「楽しみながら夢をつくる・二十一世紀の街づくり」と題し、武井紀夫先生(株・創造屋代表取締役)が講演をされた。武井先生は、地域づくりの総合コンサルタントとして全国十数ヶ所の地域で、活き活きとした街づくりプロジェクトを手掛けてこられた。地域は、今、産業構造の変化、有史以来未経験の高齢化社会の到来と医療福祉費の上昇・画一化・国際化といった問題に直面している。この様な中でふるさと創成を進めるには、「真の心の休息」「美しいお

い」「自然と都会的センスの共存」「ここだけの文化の創造」といった視点が求められており、具体的に二十一世紀への街づくりを行う上で、一、地域を楽しく学ぶ。二、一生涯の健康。三、生き生きとした女性の参加。四、快適空間づくり。五、名づくり(有名化)。の五つを心掛けて欲しいと話された。

また、ご講演の最後には「竜丘全地区を歴史・古墳の街としてテーマパーク化したらどうか」と具体的な提案をされた。

第二講は「文化財保護運動を支えた住民の力」森將軍塚古墳、北田遺跡の事例に学ぶ」と題し、岡田正彦先生(長姫高教諭)が講演をされた。先生は、両遺跡の保護運動に深く関わってこられた。

第三講では、「自然保護の視点を持った街づくり」ギフチョウの保護活動を通じて」と題し、地元時友の会事務局が講演された。

伊那谷の自然と景観は、誇り得るふるさとのお宝であり、この唯一誇れるものが保全されないのでは、ギフチョウを始めとする昆虫ばかりか、人間にとっても住み良い環境とは言えない。(水河期よりギフチョウが住み、多くの古墳が残る竜丘は、どちらにも住み良い環境だった)将来を背負う子供達にとって、人間固有の「心」を育てる上で、生き物や自然はかけがえのない

本年度当初から、自治会と公民館の共管により、竜丘地区基本構想・計画の策定準備が進められてきた。竜丘地区は、国道一五一号線バイパスの開通を契機に、各種開発が急速に進んできているが、来たるべき二十一世紀には、高度情報化社会、高速交通網時代、本格化する高齢化社会の到来に伴い、これまで以上に地域と生活が変化していくことが予想される。こうした中で、次代の竜丘を一層「魅力と活力に溢れる地域」にしていくために、地区民の一人ひとりが知恵と力を出し合いながら地域の将来像を主体的に描こうという

①教科書になる。
 開発と保存という有史以来の命題に新しい切り口が必要で、観光・開発・企業誘致などは、伊那谷の自然を最上位において考えたいと語られた。

三講座を通じ、延べ百三十人余が受講し、十九人が終了証を受けられた。竜丘の将来を展望する基本構想などに、三講座が有意義に活用される事が望まれる。

描こう竜丘の将来

竜丘地区基本構想・計画

取り組みが今回の基本構想と公民館の共管により、竜丘地区基本構想・計画の策定準備が進められてきた。竜丘地区は、国道一五一号線バイパスの開通を契機に、各種開発が急速に進んできているが、来たるべき二十一世紀には、高度情報化社会、高速交通網時代、本格化する高齢化社会の到来に伴い、これまで以上に地域と生活が変化していくことが予想される。こうした中で、次代の竜丘を一層「魅力と活力に溢れる地域」にしていくために、地区民の一人ひとりが知恵と力を出し合いながら地域の将来像を主体的に描こうという

①、常会、組合の代表(必ずしも長でなく意欲的な人材)、各種団体長有識者等により構成される五地区毎の協議会及び住民

ね次の流れにより策定が進められる。①、常会、組合の代表(必ずしも長でなく意欲的な人材)、各種団体長有識者等により構成される五地区毎の協議会及び住民

地区の現状についての研究を通じ基本構想計画の総論を練りあげる。③、①で出された課題を整理した後、課題別専門部会を設置し、構

り事例や、飯田市及び竜丘地区の現状についての研究を通じ基本構想計画の総論を練りあげる。③、①で出された課題を整理した後、課題別専門部会を設置し、構

想・計画の各論を練りあげ、④、⑤で作成された案を地区協議会において再度検討する。⑥、成案を冊子としてまとめ地区に配布する。この事業の成否のポイント、結果として出来上がる冊子の内容の充実ももちろんであるが、それを作り上げるまでの過程においてどれだけ多くの地区民が関わり、地域づくりを主体的に考えようとする気運を如何に盛りあげることができにかかっている。全地区民が事業の経過に常に心を抱き、積極的に参画していくことが、構想・計画の内実を決定すると言っても過言ではない。

ムトス賞受賞

ギフチョウ保護運動

去る三月二十二日第五回ムトス飯田賞の表彰が行われ、竜丘のギフチョウ保護運動が受賞されました。飯田昆虫友の会を中心に、飯田小学校、老人クラブ、飯田ロータリークラブ、公



喜びの受賞代表者

保護運動に、たずさわっている塩沢義男さんは「今回の受賞は、大変うれしいが、ギフチョウは現在やっとな絶滅の危機を脱した所でこれからが大事な時期です。受賞を励みに頑張りたいと思います。」と話していただきました。

ギフチョウの保護を通して、本当の意味での私達の求める住み良い環境、地域を探り出すきっかけとしてゆきたいものです。尚、彰状、レリーフは小学校に展示される予定です。

ヤブ咲

桜の花も咲きはじり、農作業も忙しい季節となりました。先日「私達農業経営者の老後を考えなくてはダメだ」と言う旨の講演を聞き覚えさせられました。知っての通り農家(自営業者)は国民年金、サラリーマンは厚生年金です。現実には平均寿命を生きたとして、その年金差は約一億円。子供の数が一戸当り二人を切り二十一世紀には一人が三人の老人をみて行かなくてはならない事は確実です。先の参議院、衆議院選挙の争点となった悪評の「消費税」もその逆進性や、本当に福祉目的に使われるかは疑問です。来たるべき高齢化社会に向け「老後の自立を目指して」今から考える事が必要です。

熱気ムンムン

冬期体育大会

去る二月十八日、竜丘小学校体育館に於いて、冬期体育大会が開催されました。当日は、外の肌寒さとは対照的に、熱気あふれる会場で熱戦が繰り広げられました。午前中行なわれた卓球大会では、随所に好プレーが見られた反面、ラケットを持つのは小学生の時以来という声も聞かれました。午後になると、綱引き大会へと移りました。最近では練習をしていく分館もあると聞き、力の入れ様が感じられました。その為か好試合も多く、選手もさる事ながらそれ以上に応援に力が入る場面が見られました。尚、綱引きの優勝分館は、Cブロック大会に出場します。結果は次の通りです。

成績表

順位	卓球	綱引き	
		男子	女子
1	桐林	桐林	又科
2	長野原	上川路	又科
3	駒科	長野原	又科
4	時又	又科	上川路
5	上川路	駒科	長野原

「君が代」に抵抗がある様です。私も二十数年前小学校で、君が代の「君」とは天皇の事だと教わりました。新しい憲法の基で、象徴となった天皇を讃える歌を指導する事は、愛国心の押し付けであり、教育現場の混乱は子供達に良い影響は与えません。いづれにしても国民の合意なくして「愛国心」は育ちません。育つといえはそそろ苗代づくりの季節です。米は古来より私達の主食であり、自然を守り、地域文化をつくらせて来た欠かせない物。それを否定する減反政策、自由化を叫ぶ人達に愛国心を語る資格はありません。

住み良い郷土めざして 新春放談会

新しい年の幕明けと共に開催された放談会は、大きな事業が推進され揺れ動く私達の生活環境問題を中心に話され、竜丘基本構想策定が進む中、今後の取り組み方にも大きな課題を投げかけた。

去る一月二十八日、竜丘公民館において平成元年度新春放談会が来賓各位、諸団体長、一般の方々の出席により開催されました。

現在、天竜川治水対策事業、時又港建設工事が進められている中で、変貌を遂げる地域として様々な関心を集めており、それらについて多くの意見が出されました。

中でも下水道の問題では竜丘地区は他地区より数年遅れており、現在の松尾にある終末処理施設では処理しきれないといった問題を含めて、河川の水質汚濁等も考え合わせて、治水対策事業の中で終末処理施設を建設することを、地域ぐるみで取り組むべきという意見も出されました。

信濃路に春を呼ぶ

「初午」

伊那谷に春を迎える恒例の時又初午祭りが、三月四日盛大に行われました。

毎年地区民による手作りの祭りとして受け継がれてきましたが、今年には午年ということもあり、例年になく盛り上がりを見せました。一昔前までは、馬をきれいに飾って、長石寺にお参りしたのちにちなんで今年も、ポニーと馬が登場し祭りに彩りを添えました。

又二月に降った雨で雪解けが進み、水かさが増した、水温の低い天竜川にみこしをかついで飛び込むクライマックスも、事故もなく無事滞りなく盛会の内に祭りが終わりました。



馬も化粧鞍で登場



家庭環境については、今の子供達は幸せなのかという問いかけや、子供の健全育成についての問題、高齢化社会に向けてゲートボール場設置等、生きがい対策の必要性などといった意見が出されました。

家庭環境については、今の子供達は幸せなのかという問いかけや、子供の健全育成についての問題、高齢化社会に向けてゲートボール場設置等、生きがい対策の必要性などといった意見が出されました。

現在地域の基本構想策定に向けての活動が始まろうとしています。これを契機にもっと多くの人達がこの地域に関心を持ち、少しでも住み良い地域社会を目指し社会参加しましょう。

マスタープランを定める

天竜川治水対策事業

天竜川治水対策事業については、昭和六十三年秋に開始する竜丘・川路・龍江の三地区それぞれにおいて事業を受け入れ推進に向けてようとの意向がまとまりました。竜丘地区においては、関係権利者の理解と協力を得る中で、事業地の測量、土運搬道路の築造も一部行なわれたところです。

その間市の治水対策部において検討を積み重ねて来た盛土後の面整備については、基本計画(案)が昨年暮に示され、延べ五会場説明会が開かれ全体で百余人の方が出席されました。この計画における竜丘地区については、久米川を境に北側を竜丘地区、南側を川路地区としてとらえ、盛土対象面積二七・二ha、盛土量二〇万m³とされ、面整備の中では、鉄道付替一三〇m、県道整備一七

昨年十二月八日に桐林クリンセンター横にオープンした飯田勤労者総合福祉センター(愛称、サンヒルズいいだ)は、焼却場余熱利用の温水プールを備えた総合福祉センターとして、オープン以来飯田市民をはじめ下伊那郡内より注目を集めています。

サンヒルズいいだは、労働省の外郭団体である雇用促進事業団が五億円の巨費を投じて本體工事を行ない市では一億二千七百万円で敷地の確保・外溝工事及び浴場棟の建設を行いました。余熱利用の方法は焼却場の冷却水を、パイプで供給をうけ、熱交換器を通し、蓄熱槽の水(百トン)を温める熱を利用し、温水プール・浴場・暖房に使用しています。

サンヒルズいいだは、単に貸館の事業だけでなく、温水プールの運営や各種講座の開催と幅広い事業を行っています。

一五m、市道整備三六二mというものです。これをイメージ的に言えば、新堤防沿いに鉄道を付替え、盛土区域のほぼ中央に県道時又中村線を南北に走らせ、それを軸に幹線又は支線道路を縦横に配置し基盤形状となり、その街区(道路に囲まれた土地)の面積は概ね一・四haとなっている。計画平面図等はいずれも支所で公開されますので是非一見されることをお奨めします。

さて竜丘地区内の動きとしては、昨年九月末に関係地権者(竜丘在住の川路水防組合員を含む)を中心に自治会代表等により組織する天竜川治水対策推進委員会竜丘部会が発足、事業についての研究が始まっています。続いて基本計画(案)と同時に示された塚原土運

なっています。温水プールは、二十五メートル六コースで水温は二十九・五度に常時設定され真冬でも水泳を楽しむことができます。利用者の数はオープン当初平日一日三十人程度が二月中旬には七十七名位へ倍増し、日曜・祭日は二百人から二百五十人位の利用で大盛況です。

出かけ下さい。また、教室・講座事業は水泳教室・華道教室・茶道教室・ワープロ教室・エアロビクス・水中エアロビクス教室と多彩な講座を実施しており、どの講座も申し込みが殺到しすぐに満員となる状況です。サンヒルズいいだでも嬉しい悲鳴を上げています。新年度四月より

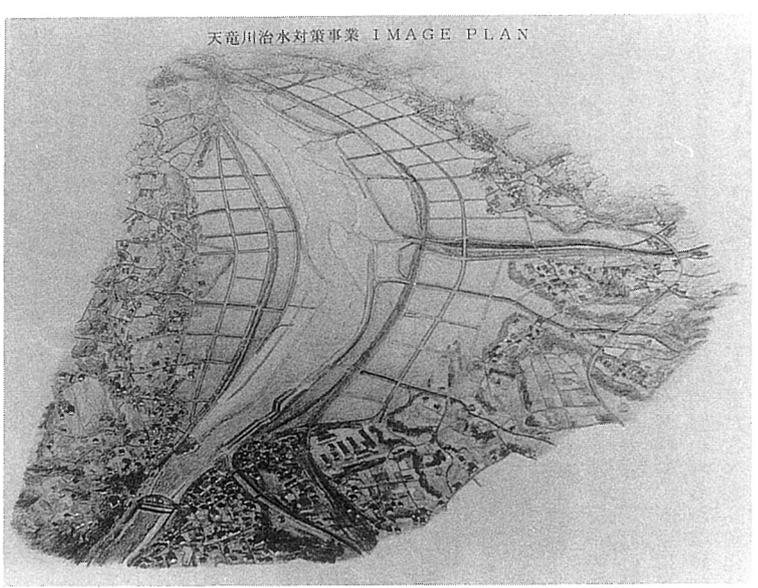
二月中旬のプール利用者数は延べ約五千三百人と開館二ヶ月で五千人を突破し年間三万人利用のペースとなっています。

水泳は体力に合った運動ができるので、若い人からお年寄りまでが利用対象です、お腹の出たお父さんぜひシェイプアップにお

搬道路についても昨春に関係地権者総会を開き、同地権者組合設立準備会が組織され、測量の了解を得て実施中で、来年度用地買収、道路築造に向け、着々と準備が進められています。年が明け建設省(天竜川沿岸)が新堤外(久米川沿岸)が新堤外地として買収する用地について三月初めに関係地権者総会を持ち、竜丘地区被買収地権者組合が設立、規約役員も決定され発足しました。これにより昨年建設省及び建設事務所が測量を行った用地調査の結果説明及び縦覧が今年度中に実施される運びとなりました。以上が竜丘地区内における状況です。

いづれにしてもこの事業は、関係地権者は勿論、当地区の将来の地域発展を左右する一大事業です。

その意味から地区民がこぞって関心を寄せ、計画から事業実施に至るまで総てが大切ではないでしょうか。



是非男性もご参加くださいとのことでした。サンヒルズいいだの部屋の施設は、一階に研修室・職業技能訓練室(二室)・会議室・視聴覚室、二階に研修室・和室(三室)・体育館兼多目的ホールを備えておりますので、ご利用をお待ちしております。浴場棟は、同敷地内へ市が単独で建設したもので、サンヒルズいいだの施設利用者は無料で利用することができます。

サンヒルズいいだの利用時間は午前八時三十分から午後九時三十分まで、プール及び風呂は午前十一時から午後九時までです。休館日は毎週木曜日と年末年始です。利用についての、お問い合わせはサンヒルズいいだ(☎二六〇七九〇)までお問い合わせ下さいとのこととです。